

入選

声かけからはじまる親切

福井県 王子保小学校

六年 松田 梁太郎

ぼくは、日ごろから意識していることがあります。それは、自分からあいさつや、人に声かけをすることです。特に、小さい子への声かけを意識しています。なぜなら、小さい子は不安や心配ごと、できないことが多くあると、思うからです。

ぼくは、今年6年生になって、集団登校班やスポーツ少年団において、「学校が楽しいか」「困っていることはないか」などの声かけをするようにしています。

少し前に、この声かけから小さな親切につながることがありました。市内の公園で、遊具の一番高い場所に2才ぐらいの子が一人でいて、不思議に思ったぼくは、その子に声をかけました。ぼくは、小さいころからだれかと仲よくなりたいときには、まず名前をおたがいに紹介しあって、仲良くすることを心がけていたので、その子にも名前を聞きました。

こんな小さい子が一人でいるなんて、変だなと思いつつも、ぼくは一度その場をはなれました。その遊具の下の方には、お腹の大きな女の人がありました。すぐに、にん婦さんだとわかりました。そのにん婦さんは大きな声で、子どもの名前を呼んでいました。その名前は、さっき声をかけた子の名前だったので、そのにん婦さんは声をかけた子のお母さんとわかりました。

さらにお母さんは、その子をおろしてあげたくても、お腹が大きいから助けてあげられないのだと思いました。ぼくは、もう一度遊具にのぼり、その子に、

「お母さんが呼んでいるからおりよう。」

と声をかけました。その子は「こわい」と言って、少しこわがっている様子でした。だからぼくは、「こわくないよ」「だいじょうぶだよ」と声をかけて、安心させてあげました。そして手をのぼして、だっこをしておろしてあげました。下におりるとお母さんがいて、「ありがとうございます」と言ってくれました。

ぼくが、このできごとで気づいたことは、変だなとか不思議に思ったことを見て見ぬふりするのではなく、きちんと声かけをしたり、自分ができることはないかと考えることが大切だということです。特に今、「コロナか」の社会では、人と人とのつながりがうすくなってきていると思います。

だからこそ、声をかけることや、あいさつといったことが人と人をつなぐ大切なことだと思います。ぼくも、乗る電車をまちがえてしまったときに困っていたら、女の人が声をかけてくれて、助けられたことがあります、そのときはうれしかったです。

こうやって、声をかけたりかけられたりや、お互いがしていくことで、いい世の中になっていくといいと思います。

これからもぼくは、声かけをつづけていきたいと思っています。